

キャラクター名	プレイヤー名
不明	

シンドローム	エンジェルハイロウ	ワークス	レネゲイドビーイングC	カヴァー	レネゲイドビーイングG
	パロール				
オプション		年齢	不明	性別	女
覚醒	無知	衝動	防衛本能 (恐怖)	初期侵食率	37 %
出自	謎の出生	経験	捕獲対象	邂逅	借り

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	28
肉体	0	0	1			1	行動値	14
感覚	4	0	0			4	(非装備時)	14
精神	3	1	2			6	戦闘移動	19
社会	1	0	0			1	全力移動	38

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃			RC	6		交渉		
回避			知覚			意志	1		調達	1	
運転:			芸術:			知識:			情報:ウェブ	4	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
		0				

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品		合計装甲:	0	合計回避:	0
自動巡回ソフト					
ストレンジフェイス					
未完のラブソング					
ARPAの書					
深淵なる知識					

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイムス	消費
想い人	P	N		
スピカ	P 執着	N 嫌気		
助けてくれた人	P 好意	N 不信感		
自分	P 執着	N 不快感		
	P	N		
	P	N		
	P	N		

最大財産P:	4	残り財産P:	
--------	---	--------	--

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コンセントレイト:エンジェルハイロウ	3	2	メジャー	-	-	-	-	
効果:	〈シンドローム〉							
ヒューマンズネイバー	1	-	常時	至近	自身	自動	RB	
効果:								
オリジン:ヒューマン	1	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果:								
オリジン:サイバー	5	2	マイナー	至近	自身	自動	RB	
効果:	【社会】							
幻影の騎士団	3	2	セットアップ	至近	自身	自動	-	
効果:								
ミスディレクション	2	5	オート	視界	単体	自動	-	
効果:								
鏡の盾	5	8	オート	効果参照	効果参照	自動	100↑	
効果:								
月光の奏者	1	2D10	オート	視界	単体	自動	120↑	
効果:								
絶対の孤独	3	3	メジャー	視界	単体	対決	-	
効果:	〈RC〉							
ダークサイト	1	5	メジャー	視界	単体	対決	120↑	
効果:	〈射撃〉 〈RC〉							
小さき魔眼	5	3	セットアップ	至近	自身	自動	-	
効果:								
迎撃する魔眼	3	7	オート	視界	単体	対決	リミット	
効果:	〈RC〉							
暗黒螺旋	5	3	オート	至近	自身	自動	-	
効果:								

何処からか突然現れては消える、全てが謎に包まれたオーヴァード。UGNでの最初の目撃情報は数年前、以後は世界中でその存在が目撃されている。全ての目撃情報を統合したところ、出現する時間、場所共にバラバラだが、高所、空がよく見える場所が唯一共通していると思われる。その仮説を裏付ける要因としては、この存在が出現時には常に空を見上げていることが挙げられている。敵性行動は今のところ確認されていないが、目的が不明である以上、現状は監視を続けるというのが上層部の方針である。
※UGN情報データベースより抜粋

FHセルの精鋭部隊が対象を捕獲しようとした際の交戦記録。
武器を装備した精鋭部隊が射程圏内まで接近するも、対象は無反応で空を見続けていた。最大限注意を払いつつ、部隊が銃火器による攻撃を開始したところ、銃弾は全て地面に吸い込まれるように落ちていった。部隊はこの時点で対象がパロールのシンドロームを有しており、強力な重力操作により銃弾を地面に叩き落とすと断定。攻撃を受けた対象はこの時点で初めて部隊の方を振り返り、直後に自身を中心とした漆黒の空間を展開。この空間は外部からの視界を完全に遮断することがカメラの映像から確認されている。その後、対象は空間内の精鋭部隊を瞬にして壊滅させると、来たときと同じように姿を消した。部隊の生き残りによれば、空間内部は闇の中に無数の光点が瞬く、宇宙に似た景色になっていたという。対象は流れ星のようにも見える無数の光弾を操り、攻撃を行ってきたとのこと。このことから、対象がパロール、エンジェルハイロウの2つ以上のシンドロームを有していることは確実。交戦記録から、対象は攻撃を受けると反撃行動を行い、その行動は敵勢力全てが戦闘不能になるまで続けられる。裏を返せば、相手から攻撃を受けない限りは攻撃を行わないという、対象の行動には一種の機械的な法則があると推測される。部隊を瞬にして壊滅させる程の力は脅威ではあるが、この法則が正しい前提であれば、対象の脅威レベルは低いと考えられた。エフェクトの様相、常に単体でいることからFHセルは対象を『彗星のアリア』と呼称。その後、上層部は全てのセルに対し対象を死亡させることは上記の行動パターンを逸脱しない限り、可能な限り避けるよう指示。それ以外であれば対象への扱いは各セルの自由とした。
※FH情報データベースより抜粋

